

令和7年度 守谷市放課後子ども総合プラン 自己評価チェックシート

施設名 黒内小学校放課後子ども総合プラン

守谷市放課後子ども総合プランの自己評価は、評価基準を子ども家庭庁『放課後児童クラブ運営指針(令和7年1月改定)』とし、施設運営の実情に応じて、放課後子ども教室及び学校をはじめとする他施設や地域との連携を踏まえた運営について、一定期間を振り返って評価するものとします。

<自己評価チェックの進め方>

- 各施設単位で、運営の内容について確認してください。
- 各チェック項目について育成支援の記録を見ながら振り返ってください。
- その際、別紙「自己評価チェックリスト」にある『評価の着眼点』を目安にしてください。また、併せて、「放課後児童クラブ運営指針解説書」も参考にしてください。なお、各チェック項目の設問は、運営指針の指針項目に基づいています。
- 各チェック項目を振り返った結果は、以下の要領で「結果」欄に記入してください。
- 例えば「○」:できている(評価の着眼点の事項がすべてできている)、「△」:一部できている(評価の着眼点の事項が一部できている)、「×」:できていない(評価の着眼点の事項がほとんどできていない)といった段階で記入してください。なお、評価に該当しない場合は、「-:該当しない(評価対象に当てはまらない)」を記入してください。
- 、△、×すべての評価について、その結果に至った理由(評価が△、×だった場合は、改善に向けた対策案など)をコメント欄に必ず記入してください。(100字以内)職員間で評価結果や気づき、より良い育成支援の視点を共有する際に役立ちます。

I 運営指針:総則とそれに直接付随する項目【=第1章、第2章、第7章に対応する項目】

区分		チェック項目	結果	コメント	
第1章 総則	1 趣旨	○「放課後児童クラブ運営指針」の趣旨を理解している。	○	児童を安心・安全にお預かりするために毎回ミーティングを行い情報交換をしている。	
	2 放課後児童健全育成事業の役割	○放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)の役割を理解している。	○	保護者や学校と話し合いし、連携に努めている。	
	3 放課後児童クラブにおける育成支援の基本	(1)放課後児童クラブにおける育成支援	○放課後児童クラブにおける育成支援の目的を理解している。	○	状況に合わせて普段から注意の声掛けをくりかえしている。
		(2)保護者及び関係機関との連携	○保護者や学校等の関係機関と連携している。	○	トラブルがあった場合は、密に保護者と話をしている。
(3)放課後児童支援員等の役割		○放課後児童支援員及び補助員は、その役割を理解している。	○	役割を理解している。	
(4)放課後児童クラブの社会的責任		○放課後児童クラブの社会的責任、子どもの権利や人権に配慮することを理解し、職員間で共有している。	○	研修などを受けている。	
第7章 職場倫理及び事業内容の向上	4 放課後児童クラブの社会的責任と職場倫理	(1)社会的責任・職場倫理	○放課後児童クラブは社会的信頼を得る育成支援に取り組み、放課後児童支援員等は仕事を進める上での倫理を自覚し、育成支援の内容の向上に努めている。	○	子どもに合わせて言葉選びや対応手段の選択をしている。
		(2)法令遵守のための組織的取組	○放課後児童クラブの運営主体は法令を遵守するとともに、すべての放課後児童支援員等が職場倫理を自覚して職務に当たるよう組織的に取り組んでいる。(子どもや保護者の人権配慮、児童虐待等の禁止、守秘義務を遵守する。関係法令に基づき個人情報情報を適切に取扱い、プライバシーを保護する等。)	○	文書や名簿について厳重に取り扱いをしている
	5 要望及び苦情への対応	○子ども及び保護者からの要望や苦情に、迅速に対応する仕組みを整えて対応している。	○	話し合いをすぐに設け、迅速に対応を取るようになっている	
6 事業内容向上への取り組み	(1)職員集団のあり方	○放課後児童支援員等は、事業内容の向上を目指す職員集団を形成するとともに、事業内容を向上させるよう努めている。	○	係活動を設け、分担し業務している。	
	(2)研修等	○放課後児童クラブの運営主体は、放課後児童支援員等の研修機会の確保や参加できる環境を整えている。(性暴力防止を含む)	○	環境が整っている。	
	(3)運営内容の評価と改善	○放課後児童クラブの運営主体は、子どもや保護者の意見を取り入れて自己評価を行い、その結果を公表し、事業内容の向上に生かしている。	○	毎年の保護者アンケート、自己評価表を実施し、結果をもとに取り組み方を考え内容の向上や改善を図るよう心がけている。	
第2章 事業の対象となる子どもの発達	7 子どもの発達理解	○放課後児童支援員等は、子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、配慮が必要な子どもへの支援体制の整備、育成支援を行っている。	○	理解していくようにミーティングを行っている。	

II 運営指針:育成支援に直接かかわる項目【=第3章、第5章に対応する項目】

区分		チェック項目	結果	コメント	
第3章 放課後児童クラブにおける育成支援の内容	8 育成支援の内容	(1)育成支援の内容	○育成支援の内容について理解している。(子どもの人権に配慮し、児童クラブや支援員が信頼できる存在であることなど)	○	理解している。
		(2)育成支援の留意点	○育成支援の留意点を理解し、支援を行っている。	○	それぞれ特性での対応が間に合うようになっている。
	9 障がいのある子どもへの対応	(1)障がいのある子どもの受入れの考え方	○障がいのある子どもの受入れの考え方を理解し、可能な限り受入れに努めている。	○	保護者と面談し、可能な限り受け入れるよう努めている。
		(2)障がいのある子どもの育成支援に当たっての留意点	○障がいのある子どもの育成支援に当たっての留意点を理解し、育成支援を行っている。	○	十分に理解し、支援していくよう努めている。
	10 特に配慮を必要とする子どもへの対応	(1)児童虐待への対応	○児童虐待に加え、性暴力の早期発見の努力義務があることを理解し、保護者の不適切な養育や児童虐待が疑われる場合には、関係機関と連携し、適切に対応している。	○	関係機関と常に情報共有を行っている。
		(2)特別の支援を必要とする子どもへの対応	○家庭での養育について特別な支援が必要な子どもには、関係機関と連携して適切に支援を行っている。	○	関係機関と連携し適切な対応をするようになっている。
		(3)特に配慮を必要とする子どもへの対応に当たっての留意事項	○特に配慮を必要とする子どもへの対応に当たっては、プライバシーの保護や秘密保持に留意している。	○	ミーティング等を通じてプライバシー保護に努めている。
	11 保護者との連携	(1)保護者との連絡	○各種連絡手段を活用して、子どもの出席、遊びや生活の様子について保護者と情報を共有している。	○	りんくる導入により連絡手段が取れやすくなった。
		(2)保護者からの相談への対応	○保護者と信頼関係を築き、相談に適切に対応している。	○	保護者が相談しやすい環境になるよう努めている。
		(3)保護者及び保護者組織との連携	○保護者との協力関係を構築するとともに、保護者組織と連携している。	○	連携は良好で定期的イベント開催をしている。
	12 育成支援に含まれる職務内容と運営に関わる業務	(1)育成支援に含まれる職務内容	○育成支援に係る職務を実施している。	○	おたより等で子どもの様子を伝えている。
		(2)運営に関わる業務	○運営に関わる業務を実施している。	○	それぞれの業務担当者が実施している。

II 運営指針:育成支援に直接かかわる項目【=第3章、第5章に対応する項目】の続き

区分		チェック項目	結果	コメント
第5章 学校及び地域との関係	13	(1) 学校との連携	○	常に学校との連携に努めている。
		(2) 学校との連携におけるプライバシーの保護	○	個人情報や機密保持について予め取り決めている。
	14	地域、関係機関との連携	○	良い関係作りをしている。
	15	学校、児童館を活用して実施する放課後児童クラブ	○	施設利用変更がある時に事前に学校と連携をとり対応している。

III 運営指針:育成支援(事業内容)を直接支える項目【=第6章2に対応する項目】

区分		チェック項目	結果	コメント
第6章 施設及び設備、衛生管理及び安全対策	16	(1) 衛生管理	△	衛生管理を適切に行って不備ないように見直しをする必要がある。
		(2) 事故やケガの防止と対応	○	怪我や事故については、速やかにマニュアルの沿って対応している。
		(3) 防災及び防犯対策	○	地震・火災・不審者について方針を定め年3回の訓練を実施している。
		(4) 来所及び帰宅時の安全確保	○	間違え下校がないように出欠管理に十分注意をはらい受け入れを行っている。

IV 運営指針:最低基準(市の条例)に依拠する項目【=第4章、第6章1に対応する項目】

区分		チェック項目	結果	コメント
第6章 施設及び設備、衛生管理及び安全対策	17	(1) 施設	○	専用区画を有している。
		(2) 設備、備品等	△	運営に必要な備品は補充は出来ている。和机の角には危険を感じている。
第4章 放課後児童クラブの運営	18	(1) 職員配置	○	正しい支援員を配置している。
		(2) 育成支援の実施	○	単位ごとに行っている。
		(3) 放課後児童支援員の雇用形態	○	雇用の安定化を図る方策として、待遇面について昇級制度やキャリアアップを導入し、長期的に勤務できるように配慮している。
		(4) 勤務時間	○	放課後児童支援員等の勤務時間を、開所時間の前後に必要な時間を前提として設定している。
	19	子ども集団の規模(支援の単位)	○	適切な子ども数の規模の範囲(おおむね40人以下)で運営している。
	20	開所時間及び開所日	○	運営基準に沿って適切に設定している。
	21	利用開始等に関する留意事項	○	利用開始や退所に関する留意事項を理解し、適切に対応している。
	22	(1) 運営主体の要件	○	安定した経営基盤と運営体制を有し、子どもの健全育成や地域の実情についての理解を十分に有する主体が、放課後児童クラブを運営している。
		(2) 運営上の留意事項	○	放課後児童クラブの運営主体は、設備運営基準に定められた運営上の留意事項を理解し、運営している。
	23	労働環境整備	△	開設支援数に対して必要最低限の人員は確保されているが、加配込みで考えた時に支援員が足りない日が生じることがある。
24	(1) 会計管理	○	保護者会役員に会計監査を依頼し、適切に会計監査を行っている。	
	(2) 情報公開	○	実行委員会及び保護者総会などで情報公開をしている。	

VI 運営指針:性暴力防止対策【=第3章、第6章、第7章に対応する項目】

第6章 施設及び設備、衛生管理及び安全対策	25	(1) 職員啓発と啓発	△	研修を受けているが、定期的の実施がまだ出来ない。
		(2) 相談体制の整備	△	職員に対して対応マニュアルの周知が出来ていない。
第3章 放課後児童クラブにおける育成支援の内容	26	性暴力対策	○	子どもへの発達段階に応じた性暴力防止教育を実施し、自分の権利を理解できるよう支援している。
			△	相談窓口や対応体制がまだ整っていない。
第7章 職員の資質向上 職場倫理及び事業内容の向上	27	性暴力防止対策	○	研修を受け、職員が安心して働ける環境づくりに努めている。